

「ヤマアラシのジレンマ」

校長 根本愛子

風薫る季節、入学・進級して1ヶ月以上が過ぎました。生徒たちは、新しい仲間との生活の緊張がほぐれてきたようです。学級、学年、委員会、部活動等、様々な場面で生徒主体の組織が新たに生まれ、活動しています。また、今月は、2年生の宿泊学習や3年生の修学旅行があり、来月には1年生の遠足があります。そのような中で生徒たちは、思い通りにならない場面に遭遇することが多々あるはずです。その時に、自分も相手も周りも大切にできる対応を考えながら、折り合いをつけていくことを学んでいきます。それは、これからの予測困難な時代を、人と関わりながら生き抜く力の源になりますが、昨今、この力が弱い子どもが多いと言われている。

タイトルに書いた「ヤマアラシのジレンマ」という寓話は、人間関係を構築するにあたって示唆に富む話として、5月1日のPTA総会でも話をさせていただきました。「2匹のヤマアラシが寒さをしのぐようと寄り添おうとするが、トゲだらけのため、お互いの身体を傷つけ合ってしまう。そのため離れてみると、今度は寒くて耐えられない。何度も近づいたり離れたりしながら、お互いを傷つけることなく、暖をとれる適度な距離を見つけ出す」というお話です。

生徒たちは、様々な場面における、いろいろな経験の中で、互いに傷つけ合わない距離感や対応力、折り合いをつけるスキルを身に付けていきます。そして、相手の気持ちや立場を尊重することと自分を大切にすることの両方を学んでいきます。そして、それができるように生徒たちを導くことが私たち大人の責任でもあると考えます。

生徒を信じると同時に、冷静に、よりよい方向に導けるよう「チーム関城中」が、共に生徒たちの成長に向けて、同じ方向をみながら進んでいけるよう、ご協力お願い申し上げます。

今月の関中ワード

○[仲間がいれば可能性は無限大]

一人ではどんなにがんばっても100%が限界！でも、仲間がいれば、可能性の限界はないのではないのでしょうか。生徒も保護者も地域も教職員も、「チーム関城中」は、最強・最協・最響です。